

No.1 地震応せん断力係数の建築物の高さ方向の分布を表す係数 A_i

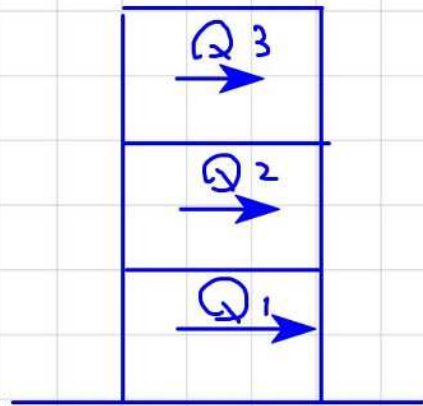
C_i

Q_i : 地震応せん断力

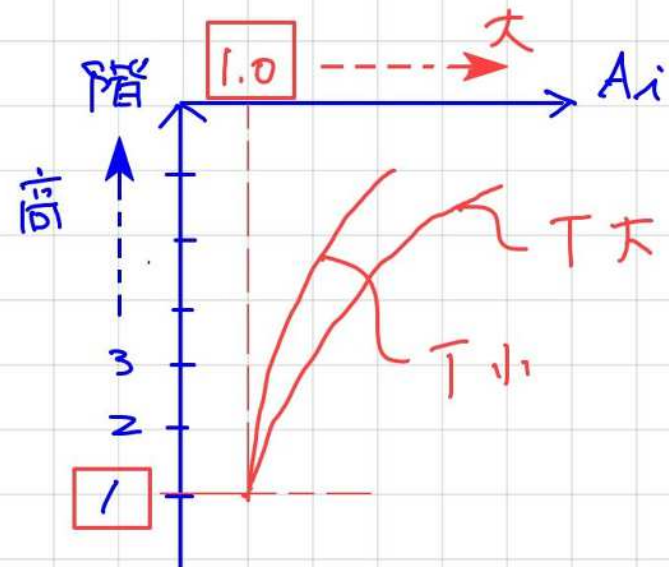
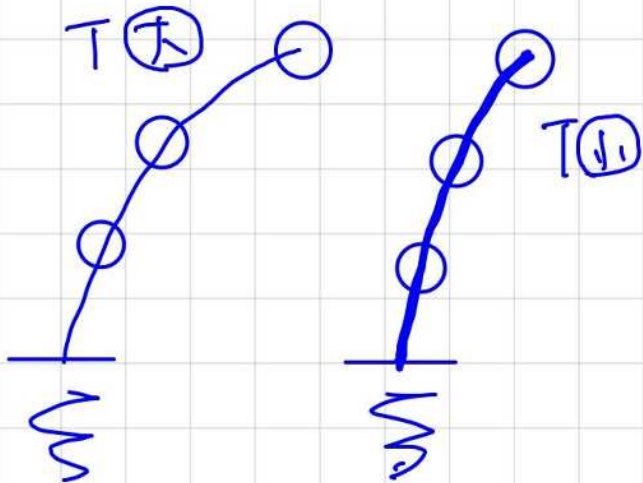
$$Q_i = C_i \times W_i$$

C_i : 地震応せん断力係数 W_i : その階が受ける重量

$$C_i = Z \cdot R_t \cdot \underline{\underline{A_i}} \cdot C_0$$



上階ほどゆれる

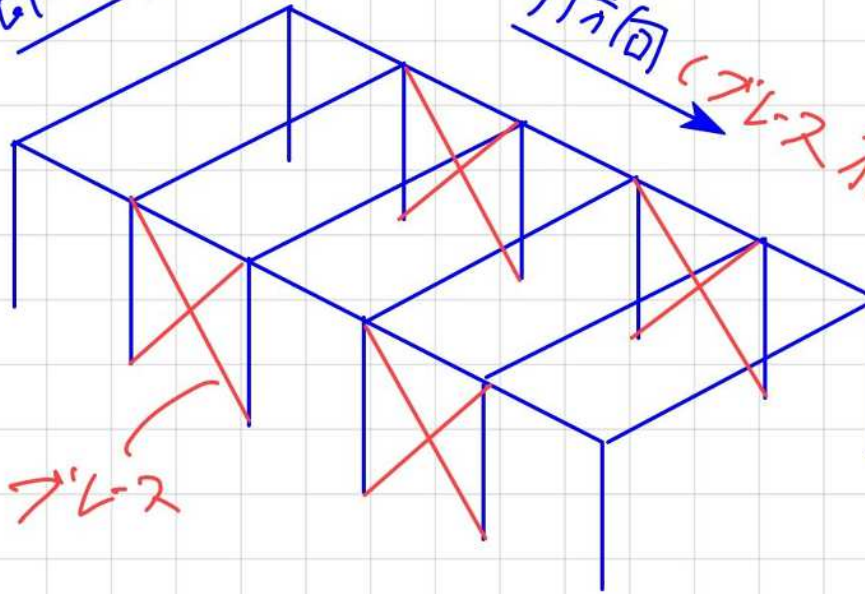


No.2 方向別に異なる耐震計算ルートの適用

構造計算の方法 (ルート1~3)

縦方向 (ラ-ヤ=構造)

横方向 (ブレス構造)



ブレス

○ 方向別に異なる計算ルートの適用は可

↓
階ごとは異なる計算ルートの適用は不可

No 3 保有水平耐力計算における形状特性を表す係数 F_{es}

↓

^ 保有水平耐力 \geq ^ 必要保有水平耐力 (Q_{un})

^ 建築物が (ている) ^ 建築物が倒壊 (た) ために

$$Q_{un} = Q_{ud} \times F_{es} \times D_s$$

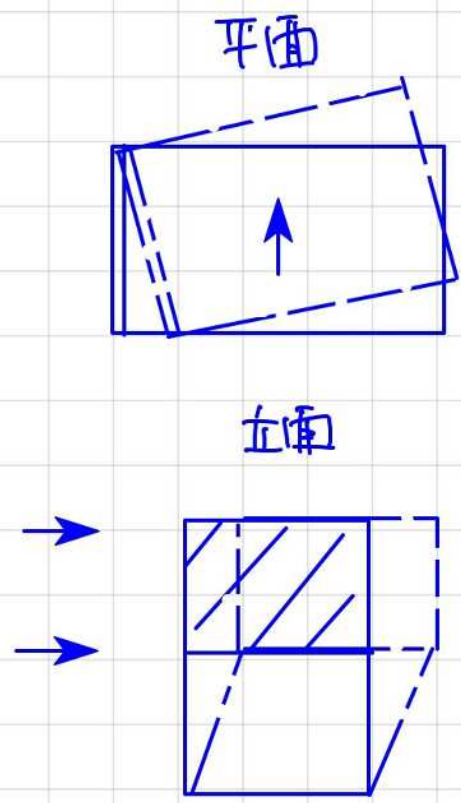
耐震要素の配置のバランスを表す係数

↓
 平面的 (偏心率)
 立面的 (剛性率)

↓
 割増係数

⇒ 必要保有水平耐力を
 割増可
 ○ (各階毎に決定)

~~(全階平均の値)~~



No.4 限界耐力計算 (= 8) 構造計算を行なう場合の仕様規定

